

東映創立60周年記念作品。湊かなえ原作の短編集『往復書簡』に所収された「二十年後の宿題」を原案としている。監督は阪本順治氏。吉永小百合氏の116本目の出演作品である。全国330スクリーンで公開され、2012年11月3、4日の初日2日間で興収1億8,039万1,800円、動員16万4,924人になり映画観客動員ランキング(興行通信社調べ)で初登場第2位となった。第36回日本アカデミー賞では、最多タイとなる12部門で優秀賞を受賞、うち3部門で最優秀賞を受賞した。小学校の撮影には既存の分校を撮影に使う案もあったが、平屋の木造校舎というイメージに合う建物が見つからなかった。木村大作氏は島の自然を捉えることにこだわり、利尻富士の見える候補地にセットを作ることを進言した。



記念撮影場所になっている校舎の玄関先



キャストや撮影のロケ場所等を紹介する展示資料室



古い教科書や懐かしい教材が並び教室



黒板には書かれた歌詞(「かなりや」になっている)



はる先生が弾いていた古いオルガン



主人公の川島はる先生が赴任する麗端小学校岬分校と利尻富士

『北のカナリアたち』をご覧になっていない方へ ■映画のあらすじ

北海道の最北端の離島で分校の小学校教師を務める川島はるは、鈴木信人、酒井真奈美、生島直樹、安藤結花、藤本七重、松田勇の6人の教え子に歌の才能を見出し、合唱を指導する事によって交流を深めていった。しかし、ある夏の日、はるが生徒たちと行ったバーベキューで悲しい事故が起き、はるは夫の行方を失い、子供たちは心に深い傷を負ってしまう。はるは6人の教え子を残し、後ろ髪を引かれる思いで島を去った。20年後、東京で働くはるのもとに思わぬ知らせが飛び込んで来る。6人の教え子の1人、鈴木信人がある事件を起こしたというのだ。はるはその真偽を確かめるべく、そして空白の20年間の思いを6人に伝えるため、島に再び足を踏み入れる事を決意する。

礼文島ロケ地に今夏オープン!

「北のカナリアパーク」

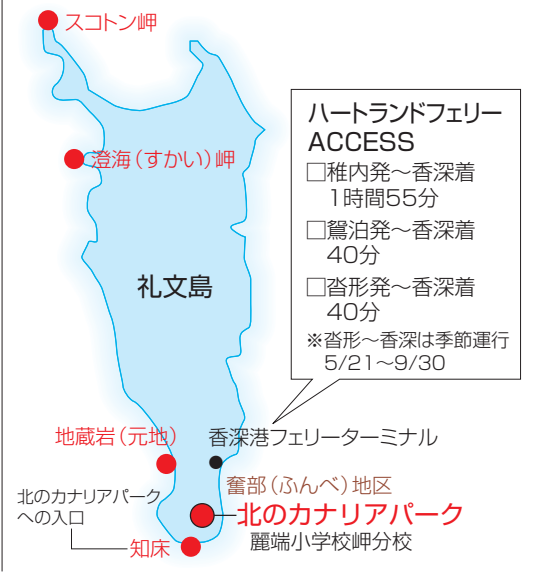


わがママチジまん

礼文町 WEB LINK

- 礼文町 ホームページ
<http://www.town.rebun.hokkaido.jp/>
- 礼文島観光協会
<http://www.rebun-island.jp/>
- カナリアなう〜礼文島 北のカナリア公園 | お知らせ
<http://www.town.rebun.hokkaido.jp/canaria/>
- れぶん花暦 (小野町長のブログ)
<http://rebun.tabilog-hokkaido.jp/>
- 映画『北のカナリアたち』と巡る北宗谷
<http://wakkanai-cci.or.jp/locanavi/>

映画『北のカナリアたち』ロケ地マップ



吉永さんは「続編をやりたいくらい。来年も再来年もここで同窓会ができた」と、最北の島に愛情を込めたメッセージを残しました。本年は、雪の季節が到来する直前まで開園する予定。現在、新たに道路を建設中ですが、完成するまでは当分大型バスの乗り入れはできません。徒歩、マイカー、レンタカー、タクシー、バイク等での乗り入れはできますが、来場の際は、道が狭いため譲り合いの精神での利用と、辺りには利尻昆布の干場や個人住宅があるため、「最徐行」での走行を心がけてください。なお9月30日まで、毎日香深港フェリーターミナル⇄北のカナリアパーク間を無料シャトル便(1日6往復)での送迎を行っています。

■小野町長へのインタビュー

「2010年11月の初めごろ、東映の社長がお見えになられまして、ロケ地を探している…。大変良いお話でしたから、何とか子どもの島で決まらないかなと思っておりましたが、半年ほど音沙汰がな

くて。翌年6〜7月にかけて吉永小百合さんがお呼びでいらして「この映画は利尻・礼文で」という気運が一段と高まったのですが、如何せん、原案・脚本のイメージに合う小学校が見つかりませんでした。そこでカメラマンの木村大作さんにもう一度島にお越しいただいて、奮部をご案内致しましたところ「ここでイイ!」の一声で決めてくださいました。

学校は架空のものなんですね?

「はい。島の最も南に位置し、視界を邪魔するものが何もない緩やかな丘陵地の上に新たに建設致しました。しかしながら架空とは言え、床材はお隣の利尻島で廃校となった新湊小学校のものであったり、版画や絵、教科書、教材などはすべて礼文で廃校となってしまう小学校の保存品です。ご覧いただければ幸いです。

町長は何度映画をご覧になりましたか?

「町内での5回の上映会をはじめ稚内や東京などで計10回見ました。全町を挙げてロケ、撮影、宿泊、エキストラ、炊き出し支援を行ってきた努力が報われました。

映画『北のカナリアたち』の感動をもう一度。北のカナリアパーク、7月27日礼文島ロケ地で一般公開。

あなたは映画館のスクリーンでご覧になりましたか? 2012年11月3日、全国公開になった映画『北のカナリアたち』。礼文島をはじめ隣の利尻島、稚内、サロベツ原野をロケ地とし、大ヒットしたこの東映60周年記念作品の製作期間は1年以上におよび、強風のため体感温度がマイナス30度に匹敵する過酷な寒さの冬と、色鮮やかなエゾカンゾウなどの花が咲き誇る初夏の2シーズンに渡ってロケが行われました。利尻富士の景色と自然の美しさ、厳しさを通じて人間の感情が表現されたこの映画の核になったセットが、麗端小学校岬分校。北のカナリアパークは、その校舎を保存し、映画資料とともに公開することによって感動をもう一度呼び覚ますとともに、永く語り継いでいくために礼文町が整備し直し、今夏7月27日にオープンし一般公開されました。

それに先立ってオープニングセレモニーのため、主演の吉永小百合さんと子役の6人、阪本順治監督が、直前の25日、1年振りに礼文島を訪れました。

「北のカナリアパーク」(命名、題字ともに吉永小百合さん)の式典ではテープカットのテープ代わりに特産品の高級昆布を使い、礼文島らしい「昆布カット」で演出するなど、関係者の表情も思わず和らいだとか。校舎前の花壇ではレブニアツモリソウの記念植栽など、セレモニーは小野徹礼文町長の陣頭指揮によって

町を挙げて準備され、当日は約500人の島民と映画関係者、宗谷管内の支援者、観光客(ハートランドフェリーでは往復割引チケットを販売)が、この新しい観光名所の誕生を歓迎し喜びました。

同公園は、礼文島の最南端の奮部(ふんべ)地区に位置し、総面積3,230平方メートル。同映画のカメラマン木村大作さんが「隣の島にそびえる利尻富士が最も美しく見える場所」と、お墨付きをいただいたロケーションの中に、岬分校のセットが保存されたほか、新たにバーベキュー(6炉予定)などが楽しめる広場、風除けのために休憩所が設けられました。



礼文町長 小野 徹さん

ごあいさつ

北のカナリアパークは2012年に全国公開された映画『北のカナリアたち』のメインロケ地である礼文島に建てられた撮影用校舎を保存・公開することにより、映画の感動や、映画の製作を通じての沢山のご縁を永く紡いでいくためにつくられました。

礼文島の南端、利尻島に最も近い場所にあるこのパークは、朝夕そして、春夏秋冬の中で二度と見ることでできない日ごとの顔を持っていて、今日もまた私たちに新しい感動を与えてくれています。

どうぞ奇跡とも言えるこの絶景と感動を通じて、ここにおこしのお一人お一人に礼文ファンとなっていただければ幸いです。